アネックス湊川ホスピタル通信

2023年 秋号

2023.9　No.11
編集発行：医療福祉相談室

アクティビティケア

当院では認知症の患者様が感じておられる生活のしづらさや、不安に対して“心地よさ”という「快刺激」を用いることで精神的な喜び、安定を保ち、認知症の症状が少しでも改善できるよう、カンフォータブルケアを導入しております。

中でもアクティビティケアは患者様からたいへん好評をいただいています。

アクティビティケアとは

認知症患者様への日常生活上の刺激の質を高めることにより
症状の進行を緩やかにし、身体機能の維持、日常生活行動の維持
ひいては認知症患者様の生活の質を高め、イキイキとした
「その人らしい」生活を提供するための援助技術です。

アクティビティケアを始める前にまず患者様お一人おひとりにどういうケアができるかスタッフと話し合い、計画し実践しました。

普段、怒りっぽい患者様は昔遊んだ風船を目にすると手を延ばし触ろうとされスタッフ1対1での風船バレーをすることができました。普段、表情が乏しく自発的な行動が少ない患者様にはベランダに出て日光浴をしながらシャボン玉をしていただくと「きれいね」と言いながら楽しそうな笑顔が見られ、シャボン玉を手に乗せたり追いかけたりと喜んでくださいました。日光浴中の患者様の一人が歌を歌い出すと、もう一人二人増え、最後には皆さんで大合唱となりました。これにはスタッフたちも驚きましたが、患者様皆さんがとても楽しいひと時を過ごすことができ、良い思い出となりました。

現在はコロナの感染対策に留意しつつ、コロナ禍でもできるアクティビティケアについてスタッフで知恵を出し合い工夫し、患者様お一人おひとりの心身の活性化につなげられたと思います。

看護部

認知症のリハビリテーション
（精神科作業療法・認知症デイケア）

当院では作業療法というリハビリを行っております。認知症の方に対するリハビリは、日常生活に必要な身体機能を維持しながら、趣味や楽しみを取り入れた活動を行うことで、自発的で生き生きとした人生をおくっていただくことを目的としています。作業療法では「できること」に注目し、その人らしさを大切にしながら、もてる力を最大限に引き出せるような活動を提供いたします。

当院では国家資格を持った作業療法士を病棟と認知症デイケア（院内付属の通所医療施設）に配置しております。

この度は日々のリハビリ内容の発表として行った「リハビリフェスティバル」と「しあわせの村　手のひらギャラリー」出展をご紹介いたします。

リハビリフェスティバル　院内発表会

春先、各病棟で発表会を行いました。演目は二階病棟が「ソーラン節」、三階病棟が「旗上げ」を企画して、二か月間がんばって練習をして本番に臨みました。病院の職員が見守る中で緊張しながらも練習の成果を発揮して無事にやり遂げることができました。患者様の表情からは達成感と、緊張から解放された安堵の様子が見られ中には感動して涙されている方もいらっしゃいました。

『憧れのハワイ航路』に乗せて
色とりどりの旗を上げます

鳴子と踊りで
ヤーレン、ソーラン、どっこいしょ

リハビリフェスティバル　院内作品展

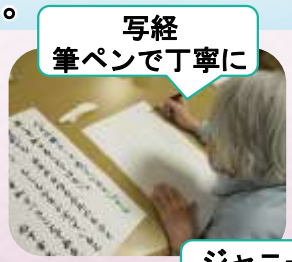
1階ロビーではデイケア利用者様・入院患者様が作業療法で作られた作品の展示を行いました。作者自身も期間中幾度も足を運び、自身の作品を誇らしく眺めたり他の方の作品を褒め合ったり、次の作品へのやる気に繋がった方もおられました。作品展ではお気に入りの作品への投票を募り、投票結果の表彰式も行いました。表彰状を受け取り記念撮影をされ、たいへん喜ばれる姿もありました。

しあわせの村　手のひらギャラリー

夏にはしあわせの村本館の「手のひらギャラリー」にて、作品展示を行わせていただきました。年齢を重ねるにつれて、感覚が鈍くなったり、体を思うように操れず自信を失ってしまったりされる方もおられます。しかし技術では若かりし頃に劣るかもしれませんが、それを補って余りある経験があり、その時、その人にしか出せない輝きや魅力があります。

近くを通った方から「どうやって作っているの？すごく上手ね」とお褒めの言葉をいただきました

この題字も作品の一つです



塗り絵
ちぎり絵

HUG＋展　9/16～9/23
原田の森ギャラリー
（兵庫県立美術館王子分館）
にも出展予定です！

今後とも様々なリハビリ行事を行ってまいりますので
どうぞよろしくお願いいたします。

アネックス湊川ホスピタル　リハビリテーション科

シリーズ　認知症　④

レビー小体型認知症

いつもお世話になっております、アネックス湊川ホスピタルの福本です。皆様方におかれましては、年々暑くなる夏を無事にお過ごしのことと祈念しております。

さて今回はレビー小体型認知症についてです。

レビー小体型認知症とは、レビー小体というタンパク質が大脳皮質の広範囲に出現し認知症の症状を呈した疾患です。認知症ではありますが、病気の初期には、記憶障害はあまり目立たない場合もあります。かわりに、この疾患の主な症状としては”認知の変動”といわれるものがあります。時間帯や日によって、しっかりしている時とボーっとしている時があり、これはアルツハイマー型認知症などの他の認知症にはあまりみられない症状になります。

また、主な症状として”幻視”、つまり家族には見えていないものを、見えると言うことがあります。その内容としては、虫や動物、子供や亡くなった家族等で、聞いている家族が驚くほど具体的な内容だったりします。

さらに、パーキンソン病という疾患がございますが、この疾患は病態としてレビー小体型認知症と同様に、レビー小体が関連しています。そのため歩行を含めて動作が遅くなることや、体が硬くなるなどのパーキンソン病の症状がレビー小体型認知症にも出現することがあります。

他に出現する症状としてはレム睡眠行動障害というものがあります。レム睡眠とは夢をみることが多いと言われる睡眠の種類で、この間は通常であれば筋肉は緩み休息している時間帯です。このレム睡眠の時に、体が激しく動くことが多いのがレム睡眠行動障害です。一緒に寝ている配偶者の方が怪我をおわれることがある程、激しく体を動かすことがあります。また体の動きだけでなく、大声で寝言を言ったりもします。このレム睡眠行動障害は、レビー小体型認知症の比較的早い段階で認めることがあるといわれており、その有無を確認することが重要とされています。同様に早期に認める症状としては、悲しい気分である抑うつ症状と嗅覚障害があるといわれています。

認知の変動

時間帯や日によって
症状が悪化

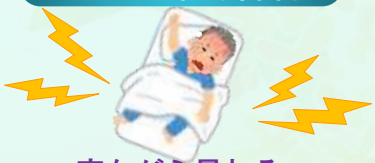
幻視

存在しないものが
見える

パーキンソン症状

手足のふるえ
動きが遅くなるなど

レム睡眠行動障害



寝ながら暴れる
大声を出す

このようにレビー小体型認知症の症状は多岐にわたりますが、その個々の症状が出現する時期にも特徴がございます。また何かお気にかかる点がございましたら、ご相談ください。　　院長：福本修平

外来診療担当表（2023年9月現在）

	月	火	水	木	金
初診	福本 桐村		桐村	福本 岡本	
再診	桐村	福本	桐村	岡本	福本

★受診は予約制です。

- ●認知症初期鑑別診断
  神戸市認知症診断助成制度
  第1段階・第2段階　対応
- ●認知症在宅療養支援
  外来　訪問看護　デイケア
- ●入院治療
  行動・心理症状治療
  認知リハビリテーション
- ●（地域コンサルタント業務）
  市民向け講演　など

職員募集

病棟看護師　訪問看護師
介護スタッフ
正職員・パート職員
職場見学随時OK！
☎ 078-743-0122
担当：丸山

未経験者の方でも大歓迎！

ホームページ
随時更新中！
ご覧ください。

〒651-1106
神戸市北区しあわせの村1-8
TEL：078-743-0122（代表）
TEL：078-743-0201（相談室）
FAX：078-743-2030
平日：9:00 ～ 16:00